



道政報告 2024年春季号



ホームページ



Facebook



X (Twitter)



Instagram

第32期道議会新体制スタート

2023年5月、日本共産党は二名で会派結成届けを提出しました。

団 長：真下紀子
幹事長・議会運営委員会
オブザーバー委員
：丸山はるみ

—所属委員会—

丸山はるみ議員は次の委員会に所属となりました。

- ・水産林務常任委員会
- ・子ども政策調査特別委員会



真下紀子団長（左）
丸山はるみ幹事長（右）

小樽—長万部間、並行在来線のバス転換は見直せ



一般質問に立つ
丸山はるみ道議

道は「関係するバス会社との協議が継続中」と言いますが、後志ブロック会議は2023年5月以降開催されていません。丸山道議は「バス転換の議論は住民の利便性の前進が前提。バス運転手不足で、バス転換は困難という現実を直視し、平行在来線のあり方を見直す必要がある」と質しました。

道は「関係するバス会社との協議が継続中」と言いますが、後志ブロック会議は2023年5月以降開催されていません。丸山道議は「バス転換の議論は住民の利便性の前進が前提。バス運転手不足で、バス転換は困難という現実を直視し、平行在来線のあり方を見直す必要がある」と質しました。

「攻めの廃線」から4年半バスまで廃止に
2019年当時夕張市長だった鈴木知事が「攻めの廃線」と豪語し、バス転換となった石勝線夕張支線はバス運転手不足で3路線が廃止に。高校生の通学手段も奪われました。丸山道議は「通学手段・地域住民の足をどのよう

並行在来線対策協議会は、北海道新幹線札幌延伸に伴い並行在来線小樽—長万部間のバス転換を方向付けました。バス運転手不足は深刻で、バス転換後の運行について「バス事業者に協力を求める」としていましたが、協議は進んでいません。

若年妊婦の支援体制守れ

2022年設立された「にんしんSOSほっかいどうサポートセンター」は北海道の委託を受け、平日夜間・休日相談の実施の他、法人独自事業として、24時間365日対応の相談窓口を開設しています。予期しない妊娠や出産に関する相談対応で切れ目のない支援体制を構築しています。



「にんしんSOSほっかいどうサポートセンター」田中佳子所長と懇談する丸山道議

道の責任で24時間 ワンストップの生活支援を

財団法人の助成金が3月で打ち切られることから事業存続が危惧されています。

丸山はるみ道議は「相談窓口につながることで命が守られる親子がいる。道の責任で支援を実施していく必要がある」と事業整備の決断を知事に迫りました。

鈴木知事は「個別の悩みに応じて支援につながる活動は重要。適切な支援につながるよう整備に取り組む」と答弁しました。

「老朽化した母子生活支援施設」 老朽化対策・機能強化に道の支援を

小樽市内の「母子生活支援施設」は、母子家庭やDV被害を受けた女性と子どもの生活を支援する児童福祉施設です。建設から82年も経過し、冬は雪が吹き込むほど老朽化しており、道の所管責任として機能強化や施設運営等への支援を求めました。

知事に要望「2024年度予算と道政執行」



「道民の暮らしを守る」予算編成を
鈴木直道知事に要請する党道議団

1月29日、党道議団は2024年度の予算編成に当たり「道民の暮らしを守る」ことを重点に編成するよう要請しました。

- 1.物価高騰から道民生活と経済を守る施策
 - 2.医師確保・検診率向上など医療福祉の充実
 - 3.防災・減災対策の見直しと避難所の環境整備
 - 4.地方公共交通の維持・存続
 - 5.核ゴミを持ち込ませず、泊原発は廃炉に
- を重点項目にすえ、丸山道議はバス運転手確保が困難になっている現状を踏まえ、平行在来線のバス転換を見直すよう訴えました。



包括的性教育「わたしもあなたも大事なひとり」

予期せぬ妊娠・出産の相談事業を道議会で取り上げる中で、人間関係や性の多様性、ジェンダー平等など幅広いテーマを含む「包括的性教育」の必要性を痛感する丸山道議。「生理のことを知ってみよう」と生理のしくみ、月経時の身体の状態をわかりやすく講演してくれる澤谷さんと「性教育は人権教育」との意義を広げていきたいと話合いました。



助産師の澤谷さきこさん（右）と丸山道議（左）

岩内町では「避難時の要支援者1029名全ての個別計画を2025年までに作成する。放射線防護施設での屋内退避後の避難は国や自衛隊が行う計画」と話し、余市町の社会福祉法人では「避難時に自力での車両確保は困難。道に支援を求めなければならない」と道のインシタプの発揮を求めています。

しかし道は「医療機関や社会福祉の避難計画の実態把握は市町村の仕事」とのスタンスです。道は原子力防災計画では、屋内退避を優先する要支援者は放射線防護施設に避難することになっています。しかし原発から5〜30キロ圏内の屋内退避施設となっていない社会福祉施設での受け入れ訓練は実施されていないことがわかりました。丸山道議は「原子力防災に責任を持つ道として町村と社会福祉施設任せの対応を改めるべき」と質しました。知事は「今後とも市町村などと連携し、防災計画について必要な見直しを行うなど充実強化に取り組む」と答えました。



「原子力防災計画・避難計画」北海道は責任を明確に
原子力委員会が泊原発周辺の基準値振動の最大693ガルへの変更を了承したことに伴い、地震発生時の災害想定や避難計画の検討が求められており、党道議団は共和町・岩内町・余市町を訪れ、原子力防災計画等の調査を行いました。

社会福祉施設での屋内退避受け入れ訓練を

道は原子力防災計画では、屋内退避を優先する要支援者は放射線防護施設に避難することになっています。しかし原発から5〜30キロ圏内の屋内退避施設となっていない社会福祉施設での受け入れ訓練は実施されていないことがわかりました。丸山道議は「原子力防災に責任を持つ道として町村と社会福祉施設任せの対応を改めるべき」と質しました。知事は「今後とも市町村などと連携し、防災計画について必要な見直しを行うなど充実強化に取り組む」と答えました。

「除雪パトロール」大雪から市民の暮らしを守ろう！



除雪パトロール。市議団とともに

99年以降の統計史上で、一番の積雪を記録した小樽市。至る所が雪山で道が狭くなりました。

1月24日、小樽市議団と一緒に除雪パトロールを実施しました。新光地域の住民から寄せられていた道道一号線の除雪を道に申し入れ、除雪が実現しました。

「人手不足は深刻です」中小企業家同友会訪問



「人材育成に力づく」と太田秀吉事務局長



ひろがれ！パートナーシップ制度

「小樽プライタイム2023集会」に参加

～どうなる?!高級カレイマツカワ～

「道栽培漁業伊達センター」（伊達市）で、高級カレイ「マツカワ」の種苗生産がされており、漁獲量の確保を支えています。

同センターでは飼育用の海水を北海道伊達火力発電所から無償で提供を受けていました。

伊達火力発電所が3月に休止することを受け丸山道議は、新たな取水方法など事業継続に向けた、道の対応を求めました。



ラピダス誘致 政策決定の文書もないずさんさ

北海道は知事がトップセールスを行って次世代半導体メーカー「ラピダス株」の誘致を促進してきました。しかし誘致の是非を判断するメリットや課題整理についての庁内検討過程があきらかにされていません。

丸山道議は「税金を投入して誘致を行う以上、庁内検討過程を明らかにせずして道の事業執行の正当性を道民に説明できるのか」と知事に迫りました。知事は「地域、事業者の懸念・ニーズを踏まえ検討を進める」と答えました。

「蘭越町の水蒸気噴出、急ぎ不安や実害の解消を!!」

地熱発電の掘削現場で地中から蒸気が噴出し、高濃度のヒ素が検出された問題で、丸山道議は現地に足を運び、農業への風評被害の現状や心配事を聞き取りました。

水産林務委員会で道有林への影響や原状復帰、樹木の保障に関し、道の取り組みを質しました。



お困りごと相談お受けします

- 月曜日～金曜日
- 午前9時30分～午後3時30分



丸山はるみ事務所

小樽市稲穂1-12-205
ステーションハイツ

☎64-5591 FAX64-5592